

天元實記

四

歡

漫錄

庫	文	閣	內
一五〇函	三四四八	六冊	和書類
一三架	號	冊	類

第一

233
閣

內閣文庫	番號	和	34484
	冊數		6(4)
	函號		150 70

共六



天元寶記卷之四



一 吾比出建之法將沐休之可致取力首之入軍之
 備後之太極名出號之古抄本之取之田之取之人之向
 抄本之持之定之古抄本之古抄本之西之因之古抄本
 人之古抄本之取之古抄本之古抄本之古抄本之古抄本
 此後之古抄本之古抄本之古抄本之古抄本之古抄本
 者之古抄本之古抄本之古抄本之古抄本之古抄本
 備後之古抄本之古抄本之古抄本之古抄本之古抄本
 不之古抄本之古抄本之古抄本之古抄本之古抄本

過前運と云々たるは、毫末の形と抄す。前中、意難と
又、事と前上持、辰、藏、元と云々、遂に合方と云々、道流
之主將、信田、家、長、末、大、為、多、人、取、之、七、月、又、日、大、海、に、渡
出、那、り、之、多、也、人、取、三、万、九、千、余、之、者、か、ら、信、田、上、着
陣、し、之、各、多、也、と、定、め、東、之、方、ハ、備、前、中、納、言、長、末、大、為、多、
秀、頼、所、之、之、物、類、十、但、西、之、方、ハ、法、律、兵、庫、頭
義、弘、同、中、勢、湯、河、信、濃、寺、少、之、方、ハ、野、村、肥、後、松、浦
信、濃、寺、乾、之、方、ハ、鹿、前、中、納、言、秀、秋、堀、尾、和、泉、寺、熊、谷
内、益、寺、外、少、之、九、列、元、抄、多、也、之、石、田、之、成、之、也、
之、後、之、野、城、中、太、田、信、重、由、人、引、籠、ハ、毛、利

群、元、之、軍、勢、之、一、日、之、後、之、日、城、勢、之、其、城、攻、之、節、也
竹、方、寺、之、城、兵、之、突、之、出、多、也、人、方、掛、合、之、初、之、戦
之、子、首、尾、之、多、也、之、成、多、人、之、若、也、之、引、籠、之、去、之
信、之、城、日、湯、河、信、濃、寺、之、若、也、之、時、命、之、人、之、也
松、平、之、勢、頭、城、門、之、若、也、之、勢、之、年、之、自、方、之、節、也
御、之、山、之、若、也、之、成、之、城、之、勢、之、御、之、山、之、人、之、若、也、之、勢
城、中、太、田、信、重、之、引、籠、ハ、大、橋、之、若、也、之、勢、也
之、勢、頭、之、若、也、之、勢、之、若、也、之、勢、之、一、戦、也、
雖、之、若、也、之、勢、之、若、也、之、勢、之、若、也、之、勢、之、若、也、之、勢、
之、若、也、之、勢、之、若、也、之、勢、之、若、也、之、勢、之、若、也、之、勢、

善行のりり新加陽教のりり内各他人の味
真のりり大なる事の中御とすりり之は他人
一系之義法年々有る事身一廿とて其義中
七年甲午午尾刑部之改上仕りり之善行
之新名南之應列名急下之善行也

一 徳之徳之成業とて通撰之物自之方如く之積り
ちり遠ひ是く之善く之行順房徳之徳之徳之
カ之善く之大軍に改りり之之之善く之善行
大徳も何れも中者有る中、信員及御中甲賀信之善
と信也一内之善く之善行九之善行甲賀之善行

山崎嘉助永永十月一有人之善行及御中甲賀信之善
仲之國守也人今及遠之正徳中其善行大之徳之内
其善行之善行也其善行也其善行也其善行也
と御中其善行也其善行也其善行也其善行也
御中其善行也其善行也其善行也其善行也
法軍之善行也其善行也其善行也其善行也
其善行也其善行也其善行也其善行也
其善行也其善行也其善行也其善行也
其善行也其善行也其善行也其善行也

之を以て成るる事ありしに人形を解法を以てな
る事ありしに同を以てする事ありしに其の
より出づる所を以て内々之を懸く懸くして法年の所
より進くとす候所を以て取つて候へば攻め
所は擲りて有將解法と初めを以て所より一日に攻
上る所は正別を以て傷取らる事ありしに
方は法將折上りて其處を以て取つて候へば
大と懸懸を以て身懸りのり候へば此處に攻め
法軍地へは其の事ありしに其の事ありしに
思ふ所ありしに其の事ありしに其の事ありしに

有る事ありしに其の事ありしに其の事ありしに
防戦と取違ひありしに其の事ありしに其の事ありしに
上と取違ひありしに其の事ありしに其の事ありしに
進子進上り候へば其の事ありしに其の事ありしに
か所方相事ありしに其の事ありしに其の事ありしに
事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに
攻めと取違ひありしに其の事ありしに其の事ありしに
城と取違ひありしに其の事ありしに其の事ありしに
進と取違ひありしに其の事ありしに其の事ありしに
の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに

後又甲丸... 討取得... 其方... 左門... 下道... 是道...
後又甲丸... 討取得... 其方... 左門... 下道... 是道...
後又甲丸... 討取得... 其方... 左門... 下道... 是道...

其方... 左門... 下道... 是道... 其方... 左門... 下道... 是道...
其方... 左門... 下道... 是道... 其方... 左門... 下道... 是道...
其方... 左門... 下道... 是道... 其方... 左門... 下道... 是道...

かゝる事行ふに違ふ事なく將新公の御事と申すは
けりか事毎に仕立奉る事と申すは御事と申すは
申す事毎に御事と申すは御事と申すは御事と申すは
かゝる御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
其方御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
此御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
行ふ事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは

法事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは
御事と申すは御事と申すは御事と申すは御事と申すは

のよめりしとて流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も

とてしおゆりしとて流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も
流るる水も北を流るる水も北を流るる水も

片原の御所より此の御所へは沙汰を承りてありしに
わしどもはしつと沙汰を承りてありしに

一 移入右邊橋山麓の御所より別荘の御所へ川向より
よりより海より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
と申すこと馬の御所より川向より御所より川向より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より

と申す右邊の御所より川向より御所より川向より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より
御所より川向より右邊の御所より川向より御所より

字の所原不詳なるが如く沙一親の所と歎けたり。語傳し
又その日名を尋ねて考すべし。一曰くその馬は人の
言の如く、群を従はせんと令せしめ、所をわたりて
多量と少量の大、産物に法、

一、又、圓宗沙一親の所と歎けたり。語傳し、
其の所を尋ねて考すべし。一曰くその馬は人の
言の如く、群を従はせんと令せしめ、所をわたりて
多量と少量の大、産物に法、

其の所を尋ねて考すべし。一曰くその馬は人の
言の如く、群を従はせんと令せしめ、所をわたりて
多量と少量の大、産物に法、

一 萬年物九奇物也

一 官之度事之廣福流之別江之流法之其之為法之
一 我之逆流方之句之入之度中上之度之博之之月之
物同梅之流之國字者之勝之明之其之其之一戰之
切之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之
一 官之度事之廣福流之別江之流法之其之為法之
一 我之逆流方之句之入之度中上之度之博之之月之
物同梅之流之國字者之勝之明之其之其之一戰之
切之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之

一 官之度事之廣福流之別江之流法之其之為法之
一 我之逆流方之句之入之度中上之度之博之之月之
物同梅之流之國字者之勝之明之其之其之一戰之
切之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之
一 官之度事之廣福流之別江之流法之其之為法之
一 我之逆流方之句之入之度中上之度之博之之月之
物同梅之流之國字者之勝之明之其之其之一戰之
切之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之

邦の相承は兼て後世に秘傳とて書人於七の事
と書き人々秘傳の事を知るは福永の秘傳なり
而して人の秘傳は御書の事なり故に秘傳の事
秘傳の事西尾書院の山本吉兵衛の秘傳なり
向して秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事
秘傳の事山本吉兵衛の秘傳の事秘傳の事
秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事

一 行々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
中他々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
書切々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事
秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事
秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事
秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事
秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事

一 十四日所方書本五國守事
秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事
秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事
秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事
秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事秘傳の事

予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也

予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也
予今此に於て其の身も亦秋の如きなり如林也

其後修定一列一所にて其そののり故に別之服のて
了折込にて海を正一列に思願可也少前にて其地事
馬をわたり海濱を控へて今よりそのとらふ大分
之に進入するに軍法を修了するを以て其の
折せぬを以て其の軍法を修了するを以て其の
及なり然して内府より其の事を知るに其の
りたる少前より物たるを以て其の事を知るに其の
心算を以て其の事を知るに其の事を知るに其の
あやむ事とて其の事を知るに其の事を知るに其の
及しと問ふに其の事を知るに其の事を知るに其の

西川より其の事を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の
のよき事を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の

一より其の事を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の
くわいなる事を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の
上層にて服の事を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の
の海の方を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の
性を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の
然る方を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の
固く其を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の
度を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の事を知るに其の

しよ下田中より北浦尾後と後感くし作し事程
等しく一海の家信よりきりたてし一抱り物に海
より果の以後後行志長信よりし事程以て西
中より後しる物より事程また長江より上果の以後
又海を利あるを以て引上津のきりし海を以て
お果のきりし

○ 右書向家の大原と之原実いし事程以て
またきりし海を以て事程いし事程

一 大北海原と之原の別後北事長の和事程
しよ果実と之原の別後北事長の和事程

才事合の事程の似る事程は事程いし事程
事程いし事程の事程の事程の事程の事程
事程の事程の事程の事程の事程の事程
事程の事程の事程の事程の事程の事程
事程の事程の事程の事程の事程の事程
事程の事程の事程の事程の事程の事程
事程の事程の事程の事程の事程の事程
事程の事程の事程の事程の事程の事程
事程の事程の事程の事程の事程の事程
事程の事程の事程の事程の事程の事程

本居氏は此の行状の後所の傳記を記し、
如所所持記と云ふ向中用と云ふ事、
且高下と云ふ意の事、
の如く、
ツ徳達一、
之方因と云ふ事、
と云ふ事、
と云ふ事、
願ひ、
記す、

一、
正別と云ふ事、
長尾年々、
石田、
之、
ツ、
之、
之、
切、

子孫たむあしり人となりて人なるを降し去る
少なき身あんとよふ所中命下らば命
之程へのほれとす程之に後世にあらむ
そくそんりて因情を度し四生にあらむ
少無く大なるより報向とあらむ
岸邊代野を市と名けし海邊と名けし
そくそんりて少あり多あり人老ひ
大無く多ありと名けし程之に後世の
扶助の預り所を内と名けし外と名けし
あどち所を程と名けし程のあどち程に在

そくそんりて物成

一 中世の世にあらむ人の情を悉く收束し得るも
程之を度と名けし程之を度と名けし程之を度と名けし
かきそんりて人老ひ多ありと名けし程之に後世の
内府の御用と目言ふと名けし程之に後世の
程之と名けし程之を度と名けし程之を度と名けし
そくそんりて少あり多ありと名けし程之に後世の
人老ひ多ありと名けし程之を度と名けし程之を度と名けし
少なき身のあしり人となりて人なるを降し去る
少なき身あんとよふ所中命下らば命
之程へのほれとす程之に後世にあらむ
そくそんりて因情を度し四生にあらむ
少無く大なるより報向とあらむ
岸邊代野を市と名けし海邊と名けし
そくそんりて少あり多あり人老ひ
大無く多ありと名けし程之に後世の
扶助の預り所を内と名けし外と名けし
あどち所を程と名けし程のあどち程に在

一 小西保康と行長と一戦、細子勝とて了りて是を法不
と爲るを言ふ也。信田右衛門とて其れ一戦、利と
其の勝はるも、利、少西とて其の勝はるも、其れと
行長とて、勝とて、其れ其の勝はるも、其れと
のゆゑ、其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
一、其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の

逃御、其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の
其れ其の勝はるも、其れ其の勝はるも、其れ其の

あつた作(ま)まの事なほはためな事法す(ま)と
一 逆法(ま)世(ま)此(ま)を(ま)此(ま)方(ま)は(ま)業(ま)の(ま)方(ま)討(ま)の(ま)人(ま)の(ま)字(ま)
古(ま)人(ま)事(ま)の(ま)方(ま)の(ま)四(ま)化(ま)の(ま)事(ま)化(ま)の(ま)人(ま)の(ま)名(ま)も
中(ま)の(ま)法(ま)の(ま)行(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
法(ま)の(ま)将(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)

事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)
事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)の(ま)事(ま)

此處所記の叙族も亦先皇の中世に於ては所傳を
責る也と云ふに於ては其の事も亦先皇の中世に於ては
亦其類に在りしものと云ふべし其の事も亦先皇の中世に於ては
と云ふ事も亦先皇の中世に於ては其の事も亦先皇の中世に於ては

○右に後世同族市の江原等の事も亦先皇の中世に於ては
亦其類に在りしものと云ふべし其の事も亦先皇の中世に於ては
と云ふ事も亦先皇の中世に於ては其の事も亦先皇の中世に於ては
と云ふ事も亦先皇の中世に於ては其の事も亦先皇の中世に於ては
と云ふ事も亦先皇の中世に於ては其の事も亦先皇の中世に於ては

此處所記の叙族も亦先皇の中世に於ては所傳を
責る也と云ふに於ては其の事も亦先皇の中世に於ては
亦其類に在りしものと云ふべし其の事も亦先皇の中世に於ては
と云ふ事も亦先皇の中世に於ては其の事も亦先皇の中世に於ては
と云ふ事も亦先皇の中世に於ては其の事も亦先皇の中世に於ては
と云ふ事も亦先皇の中世に於ては其の事も亦先皇の中世に於ては
と云ふ事も亦先皇の中世に於ては其の事も亦先皇の中世に於ては
と云ふ事も亦先皇の中世に於ては其の事も亦先皇の中世に於ては
と云ふ事も亦先皇の中世に於ては其の事も亦先皇の中世に於ては
と云ふ事も亦先皇の中世に於ては其の事も亦先皇の中世に於ては

あまのりやをたれおる物言ふ人おとと政務一
あつとまて後海神とて地おのりまふか
あつとまて一田一あれまてつり果とてい
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて

内房とて河をたれおる物言ふ人おとと政務一
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて
あつとまてあつとまてあつとまてあつとまて

人物及び事向ふは其の進たるは物産何れも其
以日去方なるは其の因事今も戦物所にて其
其さあたるは其の進たるは物産何れも其

を後院様のしは法丁ら其国今も其河一親は其
其をら其は其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其

福を度は此の河川中を其の進たるは物産何れも其
之成るは其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其

其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其
其の進たるは物産何れも其

四身負に言物を難に流す遠くをいふ
尸中存名園を余の海の後海は青長親天長
之中を重言一帝の二親は身難後と流す
例に承中沙水が言生物也

一法風を常以て言物を難に流す遠くをいふ
身負に言物を難に流す遠くをいふ
又言物を難に流す遠くをいふ
一法風を常以て言物を難に流す遠くをいふ
身負に言物を難に流す遠くをいふ
又言物を難に流す遠くをいふ

おのゝ人言物を難に流す遠くをいふ
身負に言物を難に流す遠くをいふ

一法風を常以て言物を難に流す遠くをいふ
身負に言物を難に流す遠くをいふ
又言物を難に流す遠くをいふ
一法風を常以て言物を難に流す遠くをいふ
身負に言物を難に流す遠くをいふ
又言物を難に流す遠くをいふ

○身負に言物を難に流す遠くをいふ

法軍勢極力方石を色とて作す

○右に舟の永年とて行陣ありては江流を畏れ
おんを所九首陣とて行陣に並付振るべき

一月廿六日土曜の城台河原とて為揚す

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

